



# NEWS ECO

シブヤパイピング工業株式会社

TEL 052-221-6911 FAX052-201-9681

URL <http://www.shibuya-p.com>



暑い暑いといっていた8月中旬、シブヤの裏庭では例年のとおり「タカノハスキ」が穂を出し始め、9月下旬には「ハギ」が咲いて「中秋の名月」を迎え、気温40℃の夏がうそだったかのように季節は廻り、秋へと確実に歩を進めています。

10月に入り朝晩はだいぶ涼しくなり、過ごしやすい季節となります。夏の暑さで磨り減った体力、気力を回復するには、絶好の季節、秋の到来です。秋の味覚に舌鼓を打ち、全身に風を感じながら汗をかき、秋の夜長を趣味に活かして英気を養い、74期・後半のスタートを切りましょう。

話しは変わって写真の「バッタ」。9月10日頃に「終齢」前と思われる幼虫を見つけ、2年ぶりの「イナゴ」再発見か？と思ったのですがイナゴには大きすぎる。

その後、温室内に脱皮殻を見つけるも、成虫は見当たらず正体不明のまま数日が経過した9月20日、シンビジュームの葉に止まる成体の「バッタ」を発見。

体調≒4.0cm 体色=淡褐色 成虫は見つけたものの、やっぱり正体不明。

「トノサマバッタ」の褐色型の個体とも思えるが足や翅の模様が違うような。もしかしたら「ツチイナゴ」？ 昆虫に詳しい方、教えてください。

いずれにしても幼虫の状態です。裏庭にいたことから「シブヤ生まれ」と思われる「バッタ」です。

**シブヤの庭・10月** 真っ赤で大きな花を付けていた「モミジアオイ」の花数も少なくなり「シュウメイギク」が風に揺れ始めたシブヤの庭では、虫の音が聞こえ始めました。春からサクラ、ボタン、バラ、クレマチス、アジサイ・・・と咲き競っていた、シブヤの庭の花も「秋バラ」の咲く11月まで一休み、花の少ない時期です。

## ＜ISO内部監査結果＞

9月10日、チームリーダー会議が開催され内部監査結果報告が行われました。結果、推奨事項：8件 アドバイス：7件 の報告がありました。

監査はサンプリングで行われています。各部門にて他部門の指摘事項も含めて「内部監査報告書」の内容を確認し、自部門の活動内容と照らし合わせ、是正すべきものがあれば積極的に是正し、今後の活動に生かしてください。

- ◎: 推奨事項・・・要求事項ではないが有用な独自の取組みを実施している
- △: 注記事項・・・明らかな不適合ではないが不適合の要因に絡む(要観察)
- ×: 不適合・・・マネジメントシステムの不備/要求事項への違反
- ※: アドバイス

	① 管理責任者	② 総務部	③ 財務部	④ 管理部	⑤ 技術部	⑥ 営業企画部	⑦ 静岡支店	⑧ 浜松支店	⑨ 岐阜支店	⑩ 三河営業所	⑪ 小牧事業所
6.1 リスク及び機会への取組み								◎			
6.1.3 EMS 順守義務	◎	※									
6.2.2 目標を達成するための取組みの計画策定					※	◎					※
7.2 力量							◎				
7.3 認識								※			
7.4 コミュニケーション								※			
7.5 文書化した情報	◎										
8.1 運用の計画及び管理											※
8.2 EMS 緊急事態への準備及び対応				※			◎	◎			
9.1.2 EMS 顧客満足											◎

評価集計 (註:重複評価あり)

◎: 推奨事項	8	2	0	0	0	0	1	2	2	0	0	1
△: 注記事項	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
×: 不適合	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
※: アドバイス	7	0	1	0	1	1	0	0	2	0	1	1
(合計)	15											

## ＜マネジメントレビュー＞

9月18日、第7回統合マネジメントレビュー・レジメに従い、74期・前期のマネジメントレビューが開催されました。

各部門長から、「年間改善活動計画書」に記載された環境/品質の活動目標の達成状況、進捗状況の報告が行われました。

また、サンプリングによる内部監査の結果、管理責任者より、「マネジメントシステムに従った活動が行われている」との発言がありました。

最後に10月1日付での、帳票の一部改訂の「お知らせ」が事務局よりあり、閉会となりました。

— 改訂帳票 — (2018年10月1日付)

- ① 改善事由報告書
- ② インフラストラクチャ・作業環境改善申請書

## 【ISO14001掲示板】

この間に外食産業ではストロー提供の廃止、紙ストローへの変更など廃プラスチックが環境に及ぼす影響を考慮した取組みが話題となっています。カメの鼻に突き刺さったストローの写真が世界を動かし始めたようです。

2018年6月、カナダで行われたG7では、プラスチックごみの削減目標を掲げようと「海洋プラスチック憲章」が話し合われた。

日本とアメリカを除くイギリスやフランス、ドイツ、イタリア、カナダが憲章にサインした。日本がサインしなかった理由は、「市民の生活や、会社などの活動への影響」を調べるとい

うものだった。1年間におよそ3億トンのプラスチックが全世界で作られ、そのうち800万トン以上が、海に流れ込んでいるといわれる。

海洋国家を自負する日本としてはなんとも説得力の無い理由による憲章参加への保留だ。

7月号で環境問題を引き起こしている物質マイクロプラスチックについて取り上げ次回は「脱プラスチック社会」を取り上げるとしてから紙面の関係で3ヶ月が経過してしまいました。

プラスチック・ストローの使用禁止の動きが世界各地で広がっています。世の中からプラスチック・ストローをなくしたとしてもプラスチックごみ対策の切り札とはなりません、身を呈したカメとともに問題提起の発端となったことは間違いありません。

日常生活の中の液体の容器はそのほとんどはプラスチックです。軽く、丈夫で、安価なペットボトルが無い生活を考えてみて下さい。重くて、壊れるガラス瓶の生活です。自然界で分解されるプラスチックの開発・実用化まで、私たちに出来ることはプラスチック製品の

- ・リサイクルのための回収
- ・ポイ捨て厳禁、分別収集

を徹底し、環境負荷を低減することです。